

## 糖尿病性腎症重症化予防プログラム開発のための研究

研究分担者 後藤 資実 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科

### 研究要旨

重症化予防プログラムを参加各地域において円滑に実施できるようにするため、参加団体代表者によるワークショップを開催し、プログラムの実践において明らかとなった課題を把握するとともに、より多くの保険者が参加可能な重症化予防プログラムの開発にむけて意見交換を行った。愛知県において、腎症重症化予防を円滑に普及させるため、愛知県版重症化予防プログラムを愛知県担当者とともに作成した。地域医師会主催の講演会等の機会を利用し、地域において保険者と医師会の円滑な連携が可能となるよう環境構築を行った。

### A. 研究目的

開始された重症化予防プログラムが円滑に各地域の実情にあった形で遂行できる環境構築方法を検討する。

### B. 研究方法

プログラムへ参加した団体に対し、実際にどのように事業を実施したのか、実施して判明した問題点などの情報共有をワークショップ形式で行う。地域での重症化予防を円滑に推進出来る環境構築のため、県担当者とともに愛知県版重症化予防プログラムを作成する。地域医師会への情報提供活動を行う。本研究において、倫理的な問題は生じない。

### C. 研究結果

研究に参加した団体を対象に2回にわたりワークショップを開催した。重症化予防プログラム実施において、医師会との連携に課題を抱えている団体が多かった。今後さらに重症化予防に取り組む自治体等を増やすため、県レベルのモデルプログラムを策定した。各自治体に具体例を示すと同時に、地域における中核病院の担当者とその連絡先を具体的に示す

事により、かかりつけ医と専門医の連携を構築しやすくした。地域医師会主催の講演会を通じて重症化予防プログラムの情報提供を行った。これらの活動を通じて、地域における保険者、かかりつけ医、専門医の連携がとりやすい環境を構築した。

### D. 考察

地域における重症化予防の推進には、保険者、かかりつけ医、専門医の連携がとれる環境構築が重要であると考えられた。